

# 余の觀たる孔孟の教

男爵 澁澤榮 一

私は本會に於て講演らしい御話をする充分の資格はありません。加藤博士とは歸一協會で親しくなり先々月頃より何か話して呉れと頼まれましたが丁度本日は差支がなかつたので出席しました様な次第であります。元來私は實業界に身を置くもので、孔孟に就て御話し申上げるのも、今福來博士の申された通り、劍道を知らぬものが劍道の講義をやると同じことで、所謂素人觀であります。只思ふ所を述べて批評を仰ぎ度いと思ひます。

私はもと農家に育つたもので、古い學問は漢籍を少しばかりやつたのみで、其後自分でも少しは味つても見ましたが、實際淺薄なものであります。古來論語のみを以て孔子を見ますが、四書の中庸なども孔子系に屬するもので、又五經の易も孔子系のものであります。大家先生も恐らく此等全部の書を詳しく究める事は出來ないであります。私は孔孟の教に就てと云ふ題を出しましたが、孟子は論語に比してあまり熟讀もしませんから、就中孔子に就て、而も主として四書中只論語に就て述べやうと思ひます。

然しながら今申上げた様に、經書専門家とは違ひ實業界にあるものでありますから、唐宋の學者、林家

一派の意見とは餘程異つた點があらうと思ひます。前者が廣くて自分の意見が狭いか、或は前者は只理窟に走つて實際に遠ざかつてゐるか、此等の點に就て御聞取りを願つておきます。

先づ第一に仁義道德と云ふ事は、孔子の最重視して教へた處で、如何なる方面の人も常に缺く事の出來ないものであります。孔子は元來一種の教を立て、以て一家をなさむとした人でなく、世に立つに官吏を以てし、周の皇室を扶け更に諸侯を糾合して、王道を弘めむとしたものであります。只教旨を論じて大教授ならむとするのとは大分趣きを異にしてをります。當時魯の國の勢は衰へ三家老政を執つてをりましたが、孔子の王道を用ふるよりも更に治國の近道があるであらうと考へたので、不幸にも孔子の主義は魯の哀公等の採用する所とならなかつたのであります。茲に於て孔子は齊宋衛等を遊説して非常なる困難に遭遇したのであります。かくの如くして諸侯中に遊説を試みたが用ひられず、遂に魯に歸つたのが六十八歳であつたと云ひます。この時は孔子は老年に及んだ爲め、既に政を執り周室を興す事の不可能なるを知り、其後専ら著述に従ひ易を研究し詩經を刪修し、春秋を作ることに力を用ひました。かくして弟子の教育に盡したのであります。それまでは孔子は世の中を治めむとしたもので教授を以て自ら任じたではありません。これは孟子と少し異なる點で孟子の頃は諸侯皆攻伐を以て事とし張儀蘇秦の説の盛に行はれた時でありまして、孟子も此の間に立つて先王の道を説いたのであります。かくて孟子は孔子と異つて居る様に思はれます。魯王を擁立して周室を恢復せむとした孔子とは大分異つた様に

思はれます。而して孔子の教ふる處は國君の行ふ處であつて或は宰相大夫たるもの或は一家長の教導方法で、友人と交はり父母兄弟の間の道を説く時にも、常に政を論じ、各方面の間に應じて自分の考を發表してをります。曾て井上博士が孔子を評して「世には往々非凡なる人がある、一方だけは非常に卓越してゐるが一方は全く缺けた人がある。而るに孔子に於ては各方面即智情意が合併して進んだものであつて、常人を非常に偉大ならしめた如き觀がある。其の各方面はよく權衡がとれて特に非凡とすべき點はない」と云はれましたが、私は此の説に非常に敬服してをります。孔子は平凡なる處即非凡と云ふべきでありませう。孟子は孔子を評して

孔子聖之時者也。

と云つたのと同じであります。論語も決して吾人に偏狹な事実飛な事を教へては居ない。吾々が人に應對し人の主治者となり、或は政を執る場合にも論語を標準として之に據る事が出來ます。只少し懸念となるのは國體の相違で、論語其の儘を奉ずると少し不都合のある事があります。此の點は帝國臣民の注意すべき事と思ひます。

民可使由之、不可使知之。

と云つて孔子が之を稱したのに至つては、孔子の教も不可であると云はねばなりません。それ故に論語は全部敬服すべきものと思はれませぬ。こは大に味ふべき點であります。然しながら學而篇より堯曰

篇に至るまで、政を執り人に接し家族の關係を説ける等總て智情意兼備したる點は大に服膺すべき點であると思ひます。歐洲式や殊に亞米利加式に云へば、「己欲するところ人に施せ」と云ひますが、無理に御馳走攻めにされて困る事があります。之に反し論語は

己所不欲、勿施於人。

と云ひ或は、

父爲子隱、子爲父隱、直在其中矣。

と云ひ、又は

惡許以爲直者。

ともあります。又意志を表はしたる所には、

自反而縮、雖千萬人、吾往矣。

と云ふのがあります。又

吾少也賤故多能鄙事、君子多乎哉、不多也。

吾嘗終日不食、終夜不寢、以思、無益、不如學也。

と云ふ様な謙遜の意味を含んだのもある。或は又非常なる確信を表はしむる語句。

天生德於予、桓魋其如予何。

とも云つてあります。これは全く別人の様ではあるけれどもこれが孔子の孔子たる所であります。此等智情意總ての點を含むことは、論語を読むものの何人も氣附く點であります。孔子の教が日本に盛となつたのは徳川氏が朱子の註を入れた爲だと思ひます。家康は應仁以來の戰亂を平定し、太平治國の實を擧げむ爲め、元和の初め大阪城を亡ぼして後、文學を盛にし古書を蒐集し、儒教佛教を興し、且つ駿府十三年間の隱居時代には、治國に心を用ひ、藤原惺窩、林羅山等を儒官に重く採用しました。羅山等の孔孟を教ふる主義は、宋の周濂溪に發し程明道程伊川を経て朱子の註に大成した説であります。朱子の註は四書を解するに必要なものとなつてをります。其後種々なる學説出で陽明學等も出ましたが、家康が特に朱子を採用した爲に、後世も朱子を主として其の學理を繼承しました。日本の林家及諸派の人も皆孔孟の教を一種の學問として研究するのみで、之を實際行つたではありません。かくして孔孟の教も頗るむつかしいものとなり一般には到底實行出来ないものとなつたのであります。徳川時代には、武士と一般平民との間に劃然たる區別があつて、仁義も人を治むるにのみ必要なものと考へられ、學者は只之を暗記して上流の人及武家に之を授くるに留まつたのであります。かくて一般の人にはかかる不相應で實行する事の出来ないものと考へられたのであります。甚だしきは農工商のものには、何等孔孟の教は必要ないと見做されました。維新までは皆そう考へたのであります。私は朱子等が孔孟の平易な教を却てむつかしいものとし、一般のものに普及せしめない様にしたのは呉れ呉れも遺憾に思ふと

ところであります。私が自ら商人の癖に論語に興味を覺え、遂に論語を事業の基礎と見做すに至つたのは大に理由のある事で次に此の點に就て御話申上げ度いと考へます。

私の故郷は東京から十里ほど隔つたところで、親から漢籍を教へられました。かのペルシーが浦賀へ來て以來學者は荐りに攘夷論を唱へ、外交は幕府のみで決すべきでないとい唱へました。よくは存じませぬが當時の漢學者は宋朝の過激論者が政治を攻撃したのを見て、自ら宋の政治論者を以て任じた様にはれます。私も此の當時江戸に出で一ッ橋家慶喜公に仕へましたが一ッ橋侯は將軍となりしも後維新となり慶喜公退くに及び私も退いて實業界に入りましたが、後又大藏省に仕へ明治六年愈々之を辭しました。かくて銀行社員となりました。丁度此の時私の親しい人に玉野世履といふ人がありました。私に意見して少し心得違ひでは無いか君の爲に甚だ惜む明治時代は職にある人が盡力する事が必要である。銀行會社などはあまり好ましいものではなからう。商賣ではとても駄目だと云つて呉れました。私も當時百姓ながらも六七年は官吏を勤めた後でありましたから、幾分か官吏根性になつてをり自ら官吏生活を續けむかとも思つて少し迷つたのであります。然し微力ながら實業も必ずしも不可能ではあるまいと考へ、自分の主義を一定する爲に經書に目をつけました。かくして論語を以て銀行經營の根本主義たらしめむと決心しこの由を玉野氏に通じました。茲に於て論語は算盤によりて尊く、算盤は論語によりて活用すと云ふ事を宣言し、論語を標準として商賣を行はむと心掛けたのであります。この事は私が終始

お活するので三島翁は論語算盤説を書いて送つて呉られたので、家の寶として保存してあります。孟子の意に利を以て利とせず、義を以て利とせよと云へるはこの點であります。孔子も理財の尊い事を述べ

富與貴、是人之所欲也、不以其道、得之不處也。貧與賤、是人之所惡也、不以其道、得之不去也。と云つてをります。又

子貢曰、如有博施於民而能濟衆如何、可謂仁乎。子曰何事於仁、必也聖乎、堯舜其猶病諸。

即天下國家を治むる上に於てのみならず。一般人民が幸福に暮すのには財利が必要であります。故に孔子は道理を誤る勿れ、富は義を旨とせよと云ふ事を云つてをります。孔子は決して富を嫌ひ之を禁じたのでなく、富其のものを目的としてはならぬと注意したまでで、この事は論語にもよく表はれてをります。私の考へるところは宋朝や徳川時代の學者の様に之を學説として研究するのではなくて、之を實際上に應用せむとするのであります。彼等學者は實際を殆ど顧みないので、孔孟の教が實際と疎遠になつたのも大に彼等に責任の存する事と考へます。前に述べた様に井上博士が孔子祭典會で述べられた言即孔子は偉大なる常識家、智情意の圓滿なる人と言はれたのを聞いて大に感じ、其の翌年の孔子祭典會で今晚述べた様な意味の事を述べたのであります。

要するに孔孟の教は實業界にある吾々にも必要なもので、學者が種々むつかしく不可解高遠なるもの

となし、恰も宗旨の如く見做し、實際人をして其の解釋に迷はしむる觀があります。丁度下手な大工や左官が築いた家や壁の様に何等役に立たぬのみならむ、吾々はかかる障礙を取り除いて進まねばなりません。かくして下級のものにも常に守り得る様にせねばなりません。教育の御勅語中には此の意味を簡明に示されてあります。

夫婦相和し朋友相信じ恭儉己れを持し博愛衆に及ぼし學を修め業を習ひ云々

この中には孔孟の教が、明かに表はれてゐるので誠に喜ばしい次第であります。私の孔孟の教に對する解釋は大體上述の様なもので、ごく卑近な解釋でありますが、これを申上げて諸君の御參考に供したいと考へます。

